

レフェリーレポート

大分県協会 松本紗也香

参加大会：『サニックスカップU-17国際ハンドボール交流大会2015』

期日：平成27年10月16～18日

開催地：グローバルアリーナ・九州共立大学・宗像市民体育館

【大会概要】

今大会は海外チームの参加により高校生の交流はもちろん、指導者・審判員も普段経験の出来ない試合を体感する事で、チームのレベルアップ・日本のレベルアップにつながる大会です。日本も強豪校の参加により、3日間全てにおいてレベルの高い激しい試合が行われました。

【大会運営】

今大会はハンドボールチームを持たない企業『サニックス』様の全面支援で行われています。グローバルアリーナは選手の宿泊施設も充実しており、大きな大会には非常に有効的な施設だと思います。また、福岡大学・福岡教育大学・九州共立大学のハンドボール部員がオフィシャルなどを務め、試合をスムーズに進めてくれました。

【反省・課題】

今大会は女子の試合を1日1試合、合計3試合を担当しました。

また、女子チームは国内チームのみの参加で、リーグ戦にて行われました。

- ・ペアでの判定基準の統一
ペアのジャッジを理解し説明を求められた際、迷いなく答える事が必要。
- ・オフensemingファールの見極め
ディフェンスを評価できていない場面が多々ある。
- ・判定のブレをなくす
前半吹かないファールを後半吹くと選手が困惑する。
- ・ペアでのコートの配分
差し違いや不信感を与えてしまう笛をなくすためにそれぞれの役割を再確認する。
とくに、今課題としているのが速攻プレーに対しての配分が出来ていない事。

- ・ 笛の強弱、長短

上級審判員は笛の音色で選手が聞き分けて試合が展開している。

選手が戸惑う様な笛や、試合が止まってしまう様な笛が多い。

- ・ ジャッジの予測と笛のタイミング

ファールが起こって次のプレーに展開してからの笛が多い。

ポイントに戻して再開が多い為、試合のスピード感が無くなってしまう。

- ・ 段階罰則の起用

警告プレーなのか？明らかなクリアチャンスだったのか？を瞬時に判断する。

その為にも位置取りを考え接触時を確実に判定する。

【感想】

この大会に参加させていただき、改めて自分自身の現時点での力量を再確認しました。

それと同時に基礎の見直しと、ペアとのコミュニケーションなどたくさんの課題が見えた経験となりました。

上級の審判の方のお話や試合での立ち振る舞い、1つの笛の音色など全てが勉強となる3日間でした。

まだまだ反省点・課題点はありますが、まずはペアである高橋審判員と意志統一を図る為試合や練習試合など積極的に参加しレベルアップできる様、努力していきます!!